

2008.1

新年あけましておめでとうございます。昨年中は大変お世話になりました。  
今年も一層のご指導・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

## 自分の住む町が、地球なんだ

NPO法人センスオブアース・市民による自然共生パンゲア理事長  
寺田 茂

2008年が始まった。子どもたちへの環境教育が広がって、温暖化防止へ一歩でも進む年になることを願っている。

気候変動に関する政府間パネル（1988年世界の科学者たちの見識が集められ毎年報告書が発表されてきたことに対して、07年度にノーベル平和賞受賞）が、11月に温暖化への取り組みについて「温暖化は疑う余地がなく、今後、20～30年間の緩和努力と投資がかぎ」と述べている。バリ島でのCOP13（国連気候変動枠組み条約第13回締約国会議）は京都議定書の内容より、具体的目標から大きく離れ削減目標値を先延ばしにした。今年は、京都議定書で決めた削減目標達成期間の第1年目。まだ、始まったばかりというのに。2008年から12年までに1990年のマイナス6%にするはずだったが、実際には6.4%増え、合計12.4%削減しなければならない。

ちなみにCO<sub>2</sub>排出の責任は、電力発電所・鉄鋼関係・産業関係・事業運輸関係で75%を優に越え、一般国民の家庭は、11%（NGO「気候ネットワーク」作成）だそうである。これからの子どもたちが、まもなく成人となって、環境を考える社会人、企業人、そして家庭人となるように、目標達成の初年度の今年、全ての人々の連携を進めたい。

自分の足下を見つめる大人、住んでいる地域が一地球なんだと愛せる子どもたちと共に。



筆者の自宅ベランダに育った緑のカーテン  
その効果も広く認知されるようになってきた。

自然観察では、  
地球環境の変化を  
知ることも多い。  
（日本女子大学  
生田の森）



板橋区では環境教育  
プログラム試行授業  
がスタート  
（上三中）

## ～板橋第七小学校での食農教育実践～

昨年5、6月の「ヤゴ救出大作戦」に続く板橋区の小学校での環境教育実践第2弾として、ついに昨年12月14日に板橋第七小学校で豆腐作りを通じた食農教育が実現した。今回の授業では、みんなで協力して豆腐を作る中で、大豆が無駄の無い食物であることや食物自給率の低さがエネルギーの浪費につながっていることなどを一緒に勉強していった。

そしてなにより今回使った大豆。この一部分は板七小で今回豆腐作りに参加した子どもたち自身が育てたものである。板七小で作った大豆をその家庭科室で豆腐に。フードマイレージゼロで環境にも優しい板七ブランドの豆腐作りを実践したことになる。

授業を行ったのは板七小の4年生全員で、8つのグループに分かれて豆腐作りを進めていった。それぞれのグループにはそれぞれ1人か2人のスタッフが入り、あわせて7、8人に。グループごとにそれぞれの豆腐作りが始まった。

豆腐作り最大のハイライトはなんといってもおからと豆乳を分ける作業。大豆をミキサーですりつぶして出来た“呉”を40℃まで温め、さらし袋に入れてひたすら絞る作業である。この時ばかりは分担も忘れてみんなが絞りに参加した。そんな中あるグループではスタッフがこの日のために縫い合わせたさらし袋に隙間が見つかったとか…。そんなハプニングがありつつも、みんなとほんのちょっとのスタッフの協力でおからと豆乳を分けることが出来た。そのとき出来たおからはお焼きになって、授業後子どもたちのもとへ。好評でおかわりをほしがる子も出るほどだった。

豆腐作りに戻り、豆乳を90℃まで温め、それを70℃に下げる段階に。この温度を下げる時、表面にゆばが出てくる。ゆばを食べての感想はさまざま。まずいという子も、大人びておいしいと言ってみる子もいて、みんなそれぞれがゆばの味を体感したようだった。

にがりを入れて、後はふたをして10～15分待つ水切るのみ。今回はこの時間に大豆や食物に関するクイズに挑戦してもらった。クイズは4択問題を5題。ことあるごとに「中国」の選択肢が選ばれていて、やっぱり食品といったら中国なのかと思わず苦笑いしてしまった。

最後はいよいよ、水切りの終わった豆腐をみんなで食べる時間に。そのまま食べたり、用意した豚汁に入れて食べたり、板七ブランドの豆腐の味を満喫できたようだった。にがりが多くてちょっと苦かった子もいたみたいだけど、概ねおいしいとのこと。こちらも一安心で、子どもたちと一緒に美味しく豆腐を食べることが出来た。

みんなで片づけをして、授業は終了。子どもたちが積極的に豆腐作りに参加してくれていたので、おいしい豆腐を作ることが出来た。次に行く学校でも板七ブランドに負けないようなおいしい豆腐を作れるように、また子どもたちと協力して楽しい豆腐作りをしたいと思える授業実践だった。

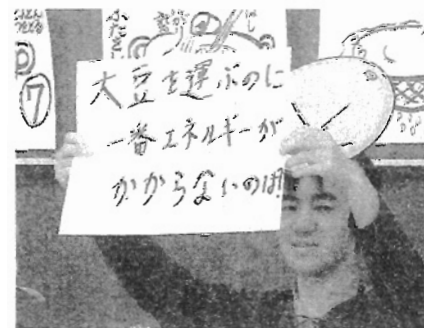
●授業後、書いてもらった子どもたちの感想では、「楽しかった」という言葉が圧倒的だった。今後、子どもたちの感想などを、さらなる良いプログラムの作成のために役立てていく予定である。



S.O.E.の教職経験者スタッフ、大学生スタッフを中心に、今回は、大豆の普及を手がける管理栄養士の方も参加。



左から：大豆からミキサーで呉をつくる……呉をあたためる……さらし袋で豆乳を絞りだす



大学生スタッフが一番苦労していたクイズの問題。子どもたちに伝えておきたいことが見事に反映されていました。



大学生スタッフの代表二人。  
左：高橋 雅俊君（明治大学4年）  
右：北野 翔平君（法政大学3年）



左：出来上がった豆腐、一人にこのぐらいの量でした。

右：授業の後、スタッフが残ったおからで子どもたちのために、おやきをつくりました。

## ◎ S.O.E. 活動報告 (2007年12月)

日	曜	内 容
1	土	SOE活動についてフリーディスカッションー組織活動全体の共有化を目指す ビオトープつくり会活動日 新春 荒川野鳥観察会共催のお誘いを受ける一板橋野鳥クラブ栗林会長より
7	金	板橋区立第七小学校4年「トーフを作って食べよう」授業事前打ち合わせ
8	土	SOEニュース発行作業日 12月号2300部発送 7名参加
11	火	板温暖化防止活動推進協議会 緑のカーテン審査
14	金	板橋区立板橋第七小学校 4年「トーフを作って食べよう」SOE出前授業 学生との協働ワークショップメンバー15名参加
15	土	ビオトープをつくり会作業日
16	日	SOE学生とのワークショップによる出前授業反省会と交流会一次の授業へ 学芸大学名誉教授 佐島祥巳先生の特別講演ー低炭素社会・循環型社会・共生社会の実現へ
20	木	板橋区環境教育プログラム部会(第5回)参加ー今年度のまとめの教師用ファイルの完成へ・プログラムバンクのスタート・ 来年度の環境教育プロ計画
21	金	志村第四小学校6年へ「トーフを作って食べよう」2日出前授業決定

## ◎ S.O.E. 活動予定 (2008年1月)

4	金	新春 荒川野鳥初見会(共催:板橋野鳥クラブ・北区水辺に親しみ会・セスオブアース・荒川クリーンエイドフォーラム ・あらかわ学会自然環境委員会)
5	土	ビオトープをつくり会作業日
12	土	SOEニュース1月号発行作業日
19	土	ビオトープをつくり会作業日
20	日	午後 SOE学生との協働によるワークショップ 於エコポリスセンター
26	土	板橋環境何でも見本市への出店準備作業
30	水	板橋区 子育て講座① 講師(寺田)成増社会教育会館主催 於熊野出張所

# S.O.E. 会員募集

センスオブアースは  
東京・板橋と沖縄で活動する  
NPO 法人です。

## 正会員・サポート会員・学生会員 募集中

下記のセンスオブアースへFAXまたはメールで、お問い合わせ、お申し込みください。